

## 平成20年度第5回 経営協議会議事要録

日 時 平成21年1月26日(月) 14:00～16:20

場 所 事務局第1会議室

欠席者 上月委員、鬼澤委員、神永委員、中島委員

配付資料

- ・ 平成20年度第4回議事要録(案)
- 1. 平成21年度国立大学法人茨城大学予算編成の基本方針(案)
- 2. 平成21年度収入・支出予算(案)
- 3. 茨城大学の地域振興・社会貢献について
- 4. 平成21年度運営費交付金内示額について
- 5. 国立大学法人等における剰余金の翌事業年度への繰り越しに係る承認について
- 6. 平成20年度補正予算案(第2号)における施設整備実施予定事業について
- 7. 中期目標素案策定WGについて
- 8. 教育研究評価に関する評価報告書(案)の送付について
- 9. 茨城大学憲章制定について
- 10. 平成20年度資金管理計画について

### 議 事 概 要

#### I 議事要録の確認

平成20年度第4回経営協議会議事要録について、原案のとおり確認された。

#### II 審議事項

##### 1 平成21年度茨城大学予算編成の基本方針について

学長から、本学の平成21年度予算編成の基本方針について審議願いたい旨提案があり、さらに、長谷川理事から、配付資料1に基づき内容について補足説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

委員から出された主な意見は次のとおり。

- 前年度と同額を確保するという項目が多く、予算の編成としては大きな変化がないように受け取れるが、学長が交替し重点的に取組む施策として4項目の基本的な柱を掲げているのであるから、もう少しメリハリがあっても良いのではないか。
- 支出面の具体的方針が、無難に編成しようとしているとは思わないが平板に感じられるところがある。大学も年々改革を遂げているということを自他共に説明するのであれば、どこに投資の力点を置くとか、どこに削減の力点を置くとか、改革の意欲が伝わるような内容・表現にした方が良いのではないかと思う。

## 2 平成21年度茨城大学収入・支出予算（骨子）について

学長から、平成21年度収入・支出予算の骨子について審議願いたい旨提案があり、さらに、長谷川理事から、配付資料2に基づき内容について補足説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

委員から出された主な意見は次のとおり。

- 外部資金の獲得について、国の競争的資金は大企業と組むより中小企業と組んだ方が獲得しやすいのではないかと考えている。中小企業としても自分たちだけでは無理だが大学と組めば獲得できるのではないかと考えている。政府としては地方の中小企業を何とかしたいということがあるので、中小企業と上手くマッチングしてやると良いのではないかと。

## III 討議事項

### 1 茨城大学の地域振興・社会貢献について

学長から、配付資料3に基づき、本学における地域振興・社会貢献について意見を伺いたい旨提案があり、意見交換が行われた。

委員から出された主な意見は次のとおり。

- 大学として地域貢献事業を種々行っていることは承知したが、このような茨城大学の取組みを県民の方々はあまり知らないようで、社会に対する広報活動をもっとやっていただく必要があると思う。社会連携事業会会報の「茨苑」を見ても非常に多くの事業をやっている。マスコミを交えるような仕掛けが必要かもしれない。また、社会連携事業会には多くの方が会員になっているが、まだまだ少ないので会員を増やすような働きかけも必要ではないか。
- ジオパーク構想について、構想を導入するという大学の役割は分かるが、観光客に呼びかけるのは大学の役割ではないと思うので、その繋ぎ方が切れているのではないかと。様々な地域貢献活動をしているということも我々だけしか知らない。社会連携事業会の会報についても、会員や企業には送付しているが一般の方々は知らない。そこに断絶があるのだと思う。例えば、本日学長が説明されたスイートソルガムやJ-PARC、KDDI通信所跡地の活用などの取組みも一般の皆さんは知らない。大学には広報担当のセクションはあると思うが、広報活動というスキルがない。地元のマスコミを代表して作っている編集局長・支局長会議のメンバーを案内して、マスコミの代表者として見学してもらおう。そういうことが広報活動のスタートになると思う。それは学長自らがやる必要はなく、広報担当の部署が課題を与えられてスキルを磨いていく。そこから実践していくのが良いと思う。
- 地域住民に目を向けることは大変良いことだ。従来は既存の組織を対象に色々連携をされていたと思うが、これからはその地域に住んでいる方々がどのような動きをしていくかによって、地域活性化が成功するか否かが係っていると思う。そういった地域住民の動きというものを大学が積極的に収集して、どういう対応をすればいいのかということをやっていたら、地域活性化の動きをより具体化する手立てになると思う。スイートソルガムについても、地球環境に良いというだけでなく一つの観光財産になるのではないかと。例えば、

雇用問題が大きな社会問題になっているが、農業に就業するような人達もそこに生まれてくる可能性もある。それが上手く成功すれば全国から注目されて、単に視察というだけでなく観光という意味合いでも見る価値が出てくると思う。広げ方を上手くやれば様々な可能性が出てくると思う。農業で言えば、茨城で作られた農産物を食べることで健康な生活ができるというようなことを一つの観光の目玉にして県外から観光客を呼び込む。これからの地域活性化というのは、こういうことをどんどん増やしていくということが最大のポイントになってくる。それには県外から見た茨城県の魅力を育てていかなければ人は来てくれないと思うので、そういう対応をしていただければと思う。

- さまざまな背景で公立学校教職員の指導力が問題になっている。先日、茨城県教育委員会でも指導以外の業務の軽減を図るという方針を打ち出した。一昨年に文部科学省へ政策要望を行ったが、県内の中学校では時間外勤務が週20時間、月80時間を超えている。そういう状況では指導法をいかに高めるかという研修は実施できないという現実がある。特にその面で思うには、指導で苦勞してもHow toのレベルで終わってしまい、指導理論をどうするかというレベルになっていない。その点では水戸市教育委員会は茨城大学と連携しており、良い協力をしてもらっている。ここ数年茨大を会場として研究発表大会をさせていただいて、しかも教育学部の教員が助言者として参加されている。これは水戸市の教員には大変大きなインパクトを与えており、大変に有り難いことである。また、教育学部の先生方は研究室の電話番号をすぐ出してくれる。この意味は、言い方は悪いが茨大の先生方を積極的に勉強のために使うということで、大変ご協力いただいている。このように、茨城大学教育学部の先生方への現場の期待は相当に大きい。そういう線を繋いでいきたい。また、来年度から教員免許状更新講習が始まる。単純に既定の時間数だけ講習を受ければ教員の指導力が上がるとは思わないが、これを一つの機会として理論的な勉強をしようとか、今までの教員生活を見直そうという視点を持つことに繋がれば良いと思う。
- 大学の学生がなるべく地域と結びついた勉強をしてもらえたら有り難いと思う。自分の課題研究や卒論などで地域に出て行って勉強するという積み重ねが、大学と地域との連携に非常に深いものがあるのではないかと思う。若い人達の勉強であれば、地域の人も諸手を挙げて協力してくれると思う。先生方の連携事業の中では学生さんも関わっているのだろうと思うが、学生の勉強との関連で一層そういう効果が出れば良いと思う。
- 広報の在り方について、広報活動の現場にその都度学長が出る必要はないと思うが、例えば3ヶ月に一度くらい学長の記者会見の機会を作り、その時のテーマに関係する学部長も同席する。支局長会議が良いのか県政記者クラブが良いのか、それは検討していただければ良いが、とにかくそういう機会を作って、学長が記者会見をすることによって学内の皆さんに広報の重要性を認識していただく必要があると思う。
- 文芸春秋に藤原正彦氏が連載しているシリーズで、毎回一冊の本を題材として授業をしているものがある。それを読んでいると、学生が本当にその本の刺激を受けて素晴らしい人間教育になっている。是非それを参考にして、本学でもそのような授業をしていただくと、良い学生が育つと思うのでご検討いただ

ければと思う。

- ここ数年、茨城の企業にとっては人材確保が問題になっている。茨城の高校生は8割が県外に出て行ってあまり戻ってこない。当社の場合も調べて見たところ茨大の卒業生が減ってきている。大学全体では地域に残る学生はどれくらいいるのか。恐らく教育学部は相当多いと思うが、他の学部はどうか。また最近学生はシステム系や情報系の志向が強く、重電系の人材の集め方が難しい。例えばそういう視点で何か考えていただいて茨城の企業に人材を供給するという貢献はできないか。人材を供給するという意味での地域貢献もあるのではないか。

#### IV 報告事項

##### 1 平成21年度予算案内示について

学長から、12月22日（月）に文部科学省から内示があった本学の平成21年度運営費交付金内示額について報告したい旨発言があり、さらに、長谷川理事から、配付資料4に基づき内容について報告があった。

##### 2 平成19事業年度における剰余金の承認について

学長から、平成19事業年度における剰余金の翌事業年度への繰り越しについて、文部科学大臣から承認の通知があったので報告したい旨発言があり、さらに、長谷川理事から、配付資料5に基づき内容について報告があった。

##### 3 平成20年度補正予算案（第2号）における施設整備実施予定事業について

学長から、平成20年度補正予算案（第2号）の閣議決定（12月20日）に伴い、文部科学省から施設整備費補助金による施設整備実施予定事業について通知があったので報告したい旨発言があり、さらに、長谷川理事から、内容について配付資料6に基づき報告があった。

##### 4 次期中期目標・中期計画案の策定について

学長から、次期中期目標・中期計画案の策定状況について報告したい旨発言があり、さらに、田切学長特別補佐（評価室長）から、内容について配付資料7に基づき報告があった。

##### 5 教育研究評価に関する評価報告書（案）について

学長から、大学評価・学位授与機構から中期目標期間における教育研究評価に関する評価報告書（案）の送付があったので報告したい旨発言があり、さらに、田切学長特別補佐（評価室長）から、配付資料8に基づき主要内容について報告があった。

##### 6 茨城大学憲章の制定について

学長から、本学の創立60周年記念事業の一環として茨城大学憲章を制定することとしたので報告したい旨発言があり、さらに、小野副学長（大学憲章検討ワーキング・グループ座長）から、配付資料9に基づき大学憲章第一次案について報告があった。

- 7 平成20年度茨城大学資金管理計画について  
財務課長から、平成20年度資金管理計画（12月分）について、配付資料10に基づき報告があった。
- 8 その他
- （1）経営協議会で討議する個別テーマについて  
学長から、次回経営協議会において討議する個別テーマについて、「茨城大学における産学官連携」としたい旨発言があった。
- （2）経営協議会会議資料の公開について  
学長から、経営協議会会議資料の公開について、確認があった。
- 次回経営協議会 3月23日（月）を予定